

造った人々の根性に圧倒された。工事で得た技術が今も活用されていることに感動した」と話した。

営業は11月4日まで。午前8時40分～午後5時。入

館料は高校生以上400円。体験坑道乗車券は同1200円。中学生以下はそれぞれ半額。連絡先は0174(38)2301。

ワクチン被害訴え

名取HPVやコロナ接種患者

ワクチン接種による健康被害を考える学習会「知ってほしい ほんとうのこと」が29日、宮城県名取市で開かれ、HPV(子宮頸がん)と新型コロナウイルス、両ワクチンの影響を訴える患者らが、接種を巡る現状や課題を話し合った。

HPVワクチン接種後の長引く不調を訴える倉上万莉佳さん(26)＝栃木県＝は、激しいめまいなど今も続く症状を説明。「多くの病院で接種との関係を否定され、心にも傷を負った」と訴えた。

コロナワクチン接種後に家族が急死した岩手、宮城

など4県の遺族も登壇。次女(当時23)＝が2回目接種の約12時間後に急死した岩手の女性(59)は「国の言

うことを信じて打ったのに」と国を批判した。



マイクを手に、ワクチン接種による健康被害を訴える当事者ら

元NHK記者で名古屋大客員教授の隈本邦彦氏(67)は国などの公表データを示し「HPVワクチンの添付文書に副反応として記載がある重篤症患者が、接種回数と同期して増える傾向にある。コロナワクチンと同様、事実が報道されず、症状を接種由来と自覚しない人も多い」と解説した。市民らでつくる「県民の健康を考える会 命の絆」の主催で、オンラインを含め約130人が参加した。



岩井 正和さん(75)
＝仙台市青葉区霊屋
下・無職

共に歩もう

東日本大震災14年

東日本大震災の揺れで仙台市太白区緑ヶ丘2丁目に借りていた一戸建てが大規模半壊しました。母と妻、息子夫婦、孫3人の計8人で暮らしていましたが、全員で引っ越せる家が見つからず、母と私だけが別れて避難しました。

手助け 生きがいに

妻も合流して3人で青葉区の災害公営住宅に引っ越したのは2015年ごろです。18年に母をみとり、今は2人暮らしです。大家族だったのでやはり少しさみしいですね。隣室で1人で暮らす80代女性を夫婦で手助けしていて、私は喫茶店経営の経験を生かして食事を届けています。それが生きがいの一つです。周囲に人生の恩返しをしつつ、元気に暮らしていきます。